



商工中金景況調査（2023年11月調査・定例分）の公表について

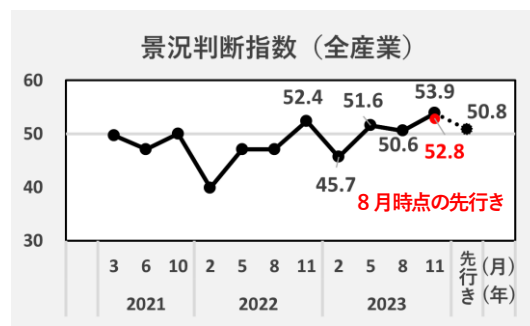
商工中金は概ね四半期に一度、中小企業の景況感などの実態把握のため景況調査を実施しており、今般2023年11月調査のうち毎回共通の質問項目（定例分）の結果について公表しました。

<2023年11月の景況感>

景況感は製造業を中心に改善し、指数は調査開始最高の53.9

11月の景況判断指数は53.9と、2020年の調査開始以降最高の数値となりました。製造業の指数は全業種で上昇し、非製造業も多くの業種で前回から上昇しました。

電気機器は今年に入って以降大幅な「悪化」超が続いておりましたが、今回かなり改善し、先行きは「好転」超を見込んでいます。鉄・非鉄も今回大幅上昇し50.0となりました。ただし、先行きは再び「悪化」超となっています。飲食・宿泊は業種別で唯一指数が低下しましたが、インバウンドや国内旅行の需要は強く、大幅な「好転」超が継続しました。

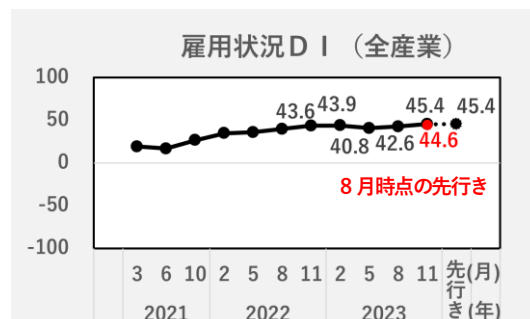


<2023年11月の業況判断>

【雇用状況】「不足」超幅はさらに拡大し、調査開始以来最高

雇用状況について、「不足」超幅は前回からさらに拡大し、DIは調査開始以来最高の数値を記録しました。

特に運輸業では「物流の2024年問題」への懸念が多く聞かれたほか、運輸業以外の荷主に該当する業種からも影響を不安視する声がありました。



- ・本編資料は[こちら](#)をご覧ください。
- ・トピックス調査分（【速報版】中小企業の賃上げの動向について）は本調査と同日に公表しております。